

# やっぱり かがく



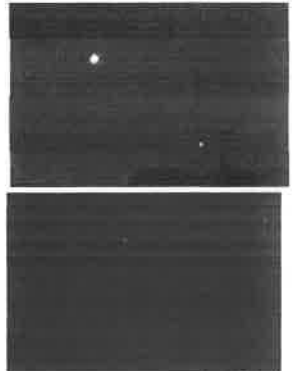
福栄小中学校 理科通信(読:高) No. 30 (H30, 7, 19)

見たことありませんか？  
11月 31日

2000年の今日、2000円札が発行されました。約1億枚が流通しているそうです。

## 火星がスゴイんです

右(→)の写真は、火曜日の夕方、我が家の近くで撮影したものです。細い三日月のそばで、明るく光輝いている星は金星です。そして、下の写真は同じ時間に撮影した木星です。金星ほどの明るさはありませんが、月の東側に美しく存在感を放っています。以前もお知らせしましたか。今、惑星がとて明るくきれいに見えます。金星、木星に遅れて夜空に昇ってくるのは土星、そして一番注目したのが火星です。下の写真は同じく



写真のうたが悪いね。



火曜日の22時頃撮影したものです。ひととき(ホントに"ひととき!"他の星と全く違うんです!)赤く明るく光輝いているのがわかるでしょうか?これが火星です。なぜこんなに明るいのか、というと、今、火星は15年ぶりの「大接近」をしているからなのです。

私のカセットが壊れたので、今月末(31日)に地球に最も近づくのです。その距離なんと!5759万kmにまで縮まるのです。通常、地球と火星の距離は7,800万kmと言われていたもので、約3割も短くなります。明るく見えるのも納得!ですよ。

肉眼で見てもその明るさに驚かされますが、天体望遠鏡を使うと、火星の南極に相当する「極冠(きょくかん)」と呼ばれる白い部分が観察できるかもしれません。また、今年は大規模なダストストーム(砂嵐)が火星を覆っているようなので、はきりとした火星の地形を観察するのは難しいかもしれません。模様の見えかたを楽しめるかも。

観察するには高い建物の上か南側の視界が開けた場所が良いでしょう。明るく光っているので視界がさえぎられなければ十分に観察できます。

今回のような「大接近」は15年から17年に1度の頻度で起こります。次回、火星と地球とが6,000万km以下の距離に近づくのは17年後の2035年で、最接近は9月11日になります。その頃には「かがく」でお知らせするのはおそらくムリなので(笑)、おければ、とにかくメモ(てあいてたさ)ね。

### うちのうさぎ:3 るーくん日記R(28)

<p>あまりにもオテンバが あきる めいちゃん 抱きかかっても 「あうっ」 「はーなせー!!」</p> <p>①</p>	<p>「...というわけで」 めいちゃんに「あこめせ」 はら... ていつ 「キ&gt;&lt;」</p> <p>③</p>
<p>こういう時には 「あこめせ」が効果的! あこめものをせることで こちらが優位と 教えてやる</p> <p>②</p>	<p>「なよ!」 「3Pきん」 「キ&gt;&lt;」 め、ちや嫌がうれた。</p> <p>④</p>